

5 「平成7年度生まれの者」と「昭和40年度生まれの者」(親世代)の年間発育量の比較

平成25年度調査で「平成7年度生まれの者」と、30年前の昭和58年度調査で「昭和40年度生まれの者」(親世代)について、6歳から17歳までの各年齢間における身長、体重の年間発育量を比較すると、以下のとおりになります。

(1) 身長

身長の年間発育量について「平成7年度生まれの者」と親世代とを比較すると、最大の年間発育量を示す時期は、男子では両世代とも12歳～13歳で、「平成7年度生まれの者」は7.5cm、親世代は7.7cmとなっています。女子では、「平成7年度生まれの者」が10歳～11歳で7.3cm、親世代は9歳～10歳および10歳～11歳でそれぞれ6.6cmになっています。

最大の年間発育量を示す時期は、男女とも、両世代でほぼ同じ時期になっています。

(図11、図12、表8)

図11 平成7年度生まれの者と昭和40年度生まれの者(親世代)の年間発育量(身長・男子)

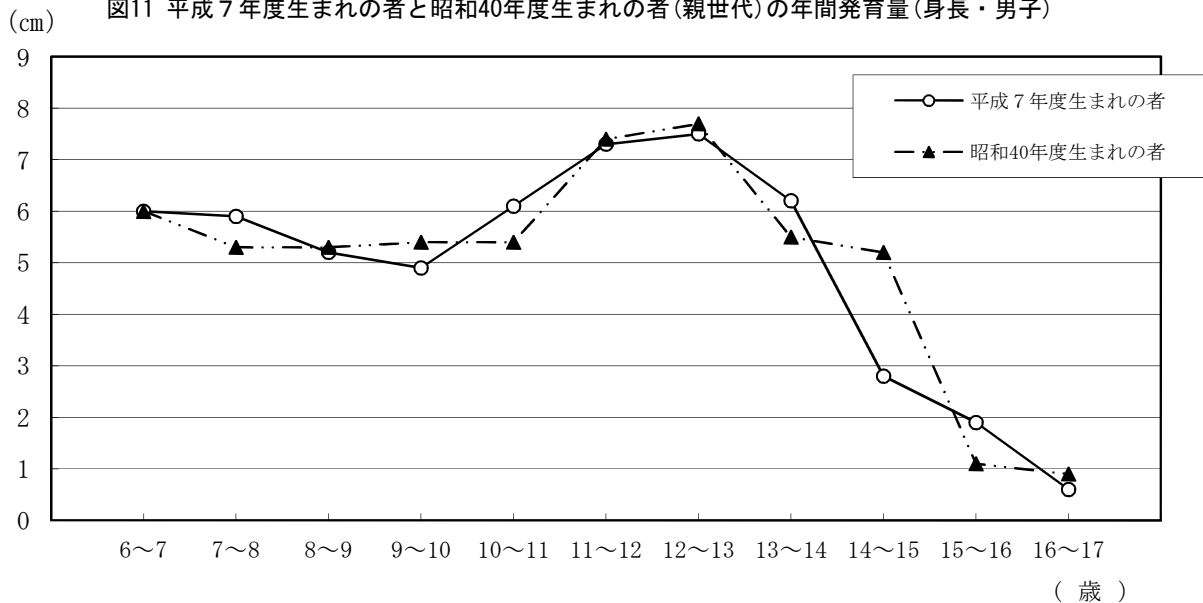
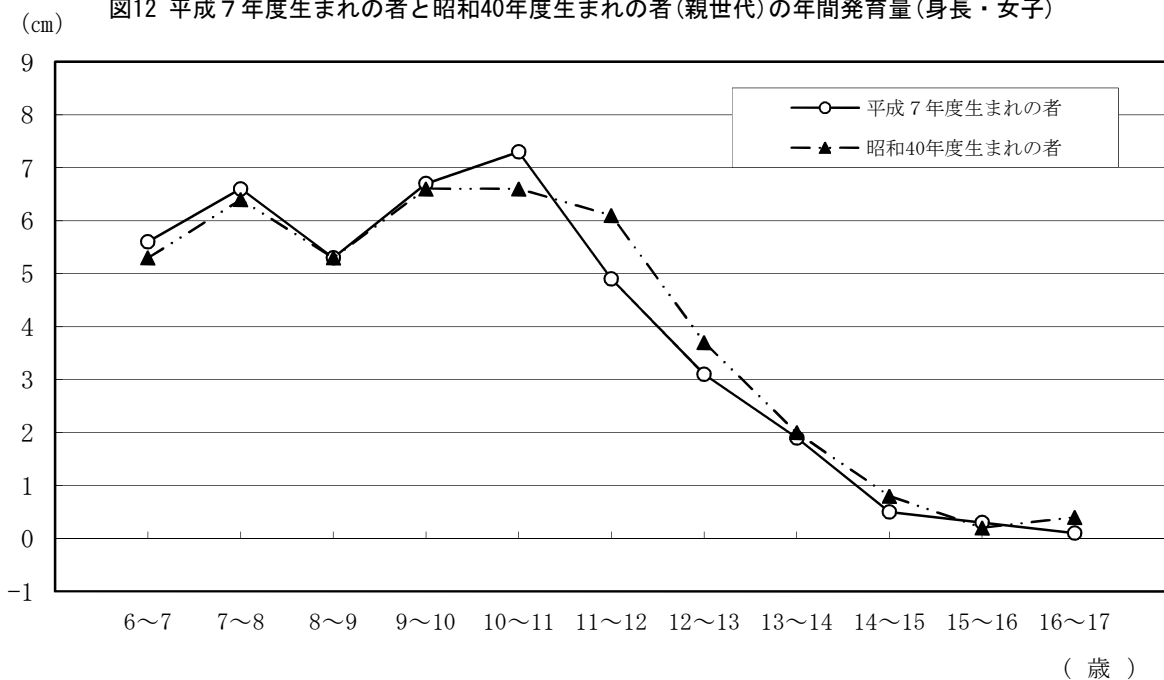


図12 平成7年度生まれの者と昭和40年度生まれの者(親世代)の年間発育量(身長・女子)

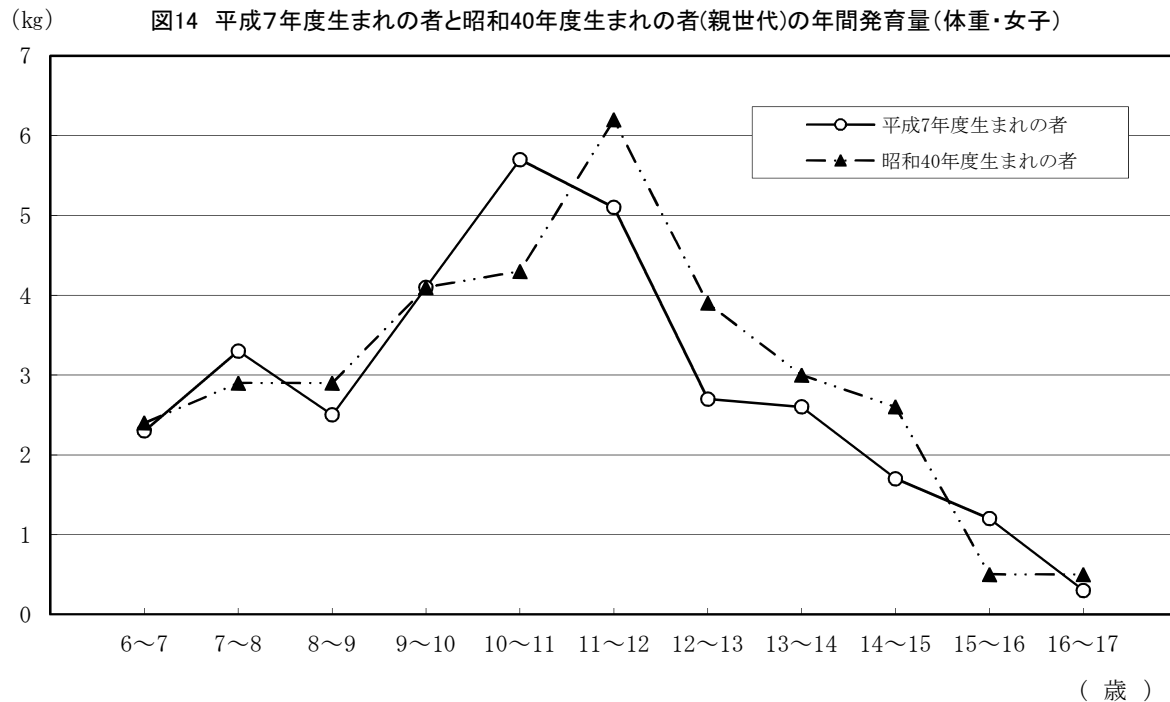
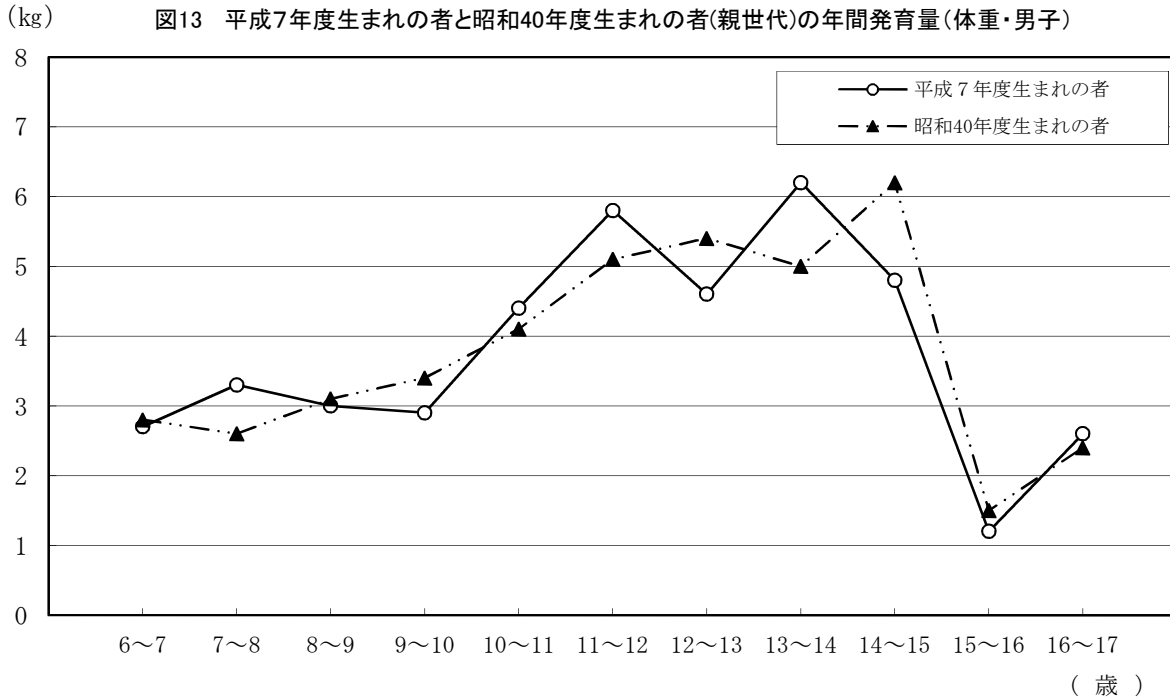


(2) 体重

体重の年間発育量について「平成7年度生まれの者」と親世代とを比較すると、最大の年間発育量を示す時期は、男子では、「平成7年度生まれの者」が13歳～14歳で6.2kg、親世代は14歳～15歳で6.2kgになっています。女子では、「平成7年度生まれの者」が10歳～11歳で5.7kg、親世代は11歳～12歳で6.2kgになっています。

最大の年間発育量を示す時期は、男女とも、「平成7年度生まれの者」が親世代より早い時期となっています。

(図13、図14、表8)



(3) 11年間(小1～高3)の総発育量の比較

身長の6歳から17歳までの11年間の総発育量は、「平成7年度生まれの者」が親世代よりも男子は0.8cm、女子は1.1cm小さくなっています。

身長の発育量を小学校の時期(6歳から12歳までの時期)と中学校・高等学校の時期(12歳から17歳までの時期)とに分けてみると、男子の発育量は、小学校の時期は「平成7年度生まれの者」の方が大きく、中学校・高等学校の時期は親世代の方が大きくなっています。女子の発育量も、小学校は「平成7年度生まれの者」の方が大きく、中学校・高等学校の時期は親世代の方が大きくなっています。

また、体重の6歳から17歳までの11年間の総発育量は、「平成7年度生まれの者」が親世代よりも男子は0.1kg、女子は1.8kg小さくなっています。

体重の発育量を小学校の時期と中学校・高等学校の時期とに分けてみると、男子の発育量は、小学校の時期は「平成7年度生まれの者」の方が大きく、中学校・高等学校の時期は親世代の方が大きくなっています。女子の発育量も、小学校の時期は「平成7年度生まれの者」の方が大きく、中学校・高等学校の時期は親世代の方が大きくなっています。

(表8)

表8 「平成7年度生まれの者」と「昭和40年度生まれの者」(親世代)の年間発育量

性別	年齢区分	身長(cm)				体重(kg)			
		平成7年度生まれの者		昭和40年度生まれの者		平成7年度生まれの者		昭和40年度生まれの者	
		年間発育量	計	年間発育量	計	年間発育量	計	年間発育量	計
男子	6歳(小1)～7歳(小2)	6.0		6.0		2.7		2.8	
	7歳(小2)～8歳(小3)	5.9		5.3		3.3		2.6	
	8歳(小3)～9歳(小4)	5.2	35.4	5.3	34.8	3.0	22.1	3.1	21.1
	9歳(小4)～10歳(小5)	4.9		5.4		2.9		3.4	
	10歳(小5)～11歳(小6)	6.1		5.4		4.4		4.1	
	11歳(小6)～12歳(中1)	7.3		7.4		5.8		5.1	
	12歳(中1)～13歳(中2)	7.5		7.7		4.6		5.4	
	13歳(中2)～14歳(中3)	6.2		5.5		6.2		5.0	
	14歳(中3)～15歳(高1)	2.8	19.0	5.2	20.4	4.8	19.4	6.2	20.5
	15歳(高1)～16歳(高2)	1.9		1.1		1.2		1.5	
	16歳(高2)～17歳(高3)	0.6		0.9		2.6		2.4	
11年間の総発育量		54.4		55.2		41.5		41.6	
年間発育量の最も大きい年齢		12歳～13歳		12歳～13歳		13歳～14歳		14歳～15歳	
女子	6歳(小1)～7歳(小2)	5.6		5.3		2.3		2.4	
	7歳(小2)～8歳(小3)	6.6		6.4		3.3		2.9	
	8歳(小3)～9歳(小4)	5.3	36.4	5.3	36.3	2.5	23.0	2.9	22.8
	9歳(小4)～10歳(小5)	6.7		6.6		4.1		4.1	
	10歳(小5)～11歳(小6)	7.3		6.6		5.7		4.3	
	11歳(小6)～12歳(中1)	4.9		6.1		5.1		6.2	
	12歳(中1)～13歳(中2)	3.1		3.7		2.7		3.9	
	13歳(中2)～14歳(中3)	1.9		2.0		2.6		3.0	
	14歳(中3)～15歳(高1)	0.5	5.9	0.8	7.1	1.7	8.5	2.6	10.5
	15歳(高1)～16歳(高2)	0.3		0.2		1.2		0.5	
	16歳(高2)～17歳(高3)	0.1		0.4		0.3		0.5	
11年間の総発育量		42.3		43.4		31.5		33.3	
年間発育量の最も大きい年齢		10歳～11歳		9歳～10歳・10歳～11歳		10歳～11歳		11歳～12歳	

(注)・年間発育量は、たとえば平成7年度生まれの者の「6～7歳」の年間発育量は、平成15年度調査の7歳の体格から平成14年度調査の6歳の体格を引いたものです。

・11年間の総発育量は、6歳から17歳になるまでの発育量の合計です。

・平成7年度生まれの者とは、平成7年4月2日から平成8年4月1日までに生まれた者で、平成14年度調査の6歳、平成25年度調査の17歳です。

・昭和40年度生まれの者とは、昭和40年4月2日から昭和41年4月1日までに生まれた者で、昭和47年度調査の6歳、昭和58年度調査の17歳です。